

3 学年英語科学習指導案

日 時 平成17年10月4日(火) 5校時
徒 徒 住田町立世田米中学校 3年A組
(男子16名 女子24名 計40名)
指導者 教諭 伊藤 茂樹 ALT 美野 マーク

1. 単元名 Program 8 “A Work Experience Program” (Sunshine Book 3)

2. 単元について

(1) 教材について

本文の題材は職業体験学習についての報告である。本科では、由紀と武がそれぞれのグループを代表して、先週行われた職業体験学習についてクラスでスピーチをする。由紀は植木の剪定体験、武は旅館での接客体験、キャノン先生はハイスクール時代にオーストラリアの病院で行った職場体験について話す。

本校では総合的な学習や修学旅行で職業について学んでいる。それら自分の体験をもとに本題材を学ぶことにより、学習を深めることができると考える。

言語材料は現在分詞の形容詞的用法、過去分詞の形容詞的用法、接触節の後置修飾を扱う。いずれも後ろから前に説明を加えるという、英語の特徴的な言語材料である。また、次の単元で扱う関係代名詞も後置修飾の形をとることから関連のある文法事項である。

(2) 生徒について

今年の4月に行なった NRT 教研式学力検査では、5段階の生徒が3人(8%)、4が4人(10%)、3が17人(43%)、2が15人(38%)、1が1人(3%)であった。領域別に全国比を見ると、「聞くこと」が95、「読むこと」88、「話すこと」106、「書くこと」76であった。

ほとんどの生徒が積極的に授業を受けている。学級での学力の差は小さく、一斉指導を行なう上で大きな支障はないが、音読や言語活動など声を出す活動においては語勢がやや弱い。一方で、男女問わずペア活動を行うことができ、授業中は小さな疑問点でも恥ずかしがらずに質問できる雰囲気があるので、教え合う活動を大切にしている。

(3) 指導について

中学校3年生になり、生徒たちは進路を真剣に考え始めている。職場体験で得た感動や教訓を題材から読み取らせ、社会における労働の大切さや、そこで得ることのできる充実感について考えさせたい。

言語材料については、英語の語順が定着していない生徒が多く、後置修飾に戸惑うことが予想される。そこで、後ろから説明を加えるという英語の語順を丁寧に説明し、さらに現在分詞、過去分詞を含む文節をそれぞれ「～している」「～された」という意味のまとまりとして捉えさせることで、理解につなげたい。

本校研究主題に基づき、具体の評価規準と評価場面を明確にすることと、T・Tのスタイルで授業を行うことで個に応じた指導を目指している。T・Tにおける授業中の教師の役割を以下のようにとらえた。

Motivator : 動機、意欲を与えるもの	Modeller : 示範者	Resource : 情報提供者
Monitor : 観察者	Revisor : 校正者	Evaluator : 評価者
		Organizer : 統括者

～ は JTL にも実行が可能であるものの、ALT が行う方がより効果的であると考え、授業における目標文の口頭導入やオーラル・ドリル等を ALT の主な活躍場面として設定した。

一方、JTL は個々の生徒の実態や学習指導要領等について ALT より理解が深いので、主役の役割を担うべきであると考え実践している。

3 単元の目標

【コミュニケーションへの意欲・態度・関心】

- ・ 現在分詞や過去分詞の形容詞的用法、接触節の後置修飾を用いた言語活動に積極的に取り組もうとしている。

【表現の能力】

- ・ 現在分詞や過去分詞の形容詞的用法、接触節の後置修飾を用いた言語活動の中で、話したり書いたりして自分の考えを表現することができる。

【理解の能力】

- ・ 職業体験に関する会話を読み、その内容を正しく読み取ることができる。

【言語や文化についての知識・理解】

- ・ 現在分詞や過去分詞の形容詞的用法、接触節の後置修飾の運用における基本的な知識を身につけることができる。

4 単元の指導計画及び評価規準

Program 8 (8時間)

- | | |
|--------------------------|-----------------------|
| (1) 現在分詞の形容詞的用法の理解・・・1時間 | (5) 接触節の用法の理解・・・(1時間) |
| (2) 教科書の内容理解・・・1時間 | (6) 教科書の内容理解・・・(1時間) |
| (3) 過去分詞の形容詞的用法の理解・・・1時間 | (7) 単元のまとめ・・・(1時間) |
| (4) 教科書の内容理解・・・1時間(本時) | (8) 単元テスト・・・(1時間) |

学習項目	時間	学習活動	評価規準			
			コミュニケーションへの関心・意欲・態度	表現の能力	理解の能力	言語や文化についての知識・理解
現在分詞の形容詞的用法(後置修飾)	1	「～している(もの)」と前の語を説明するとき現在分詞の形容詞的用法を用いること及びその肯定文を学ぶ。	現在分詞の形容詞的用法の文を使った会話の中で、友達のことを進んで聞いたり、それに答えたりしようとする。(聞くこと、話すこと)	現在分詞の形容詞的用法を用い、「何がしている人や物」について説明することができる。(話すこと)		現在分詞の形容詞的用法(後置修飾)を理解している。(話すこと、書くこと)
Part 1の内容理解	2	キャノン先生と由紀の教室での会話を読み取る。			農場での職場体験で由紀たちが楽しむことができた理由を読み取ることができる。(読むこと)	
過去分詞の形容詞的用法	3	「～された人(もの)」と前の語を説明するとき過去分詞の形容詞的用法を用いること及びその肯定文を学ぶ。	過去分詞の形容詞的用法の文を使った会話の中で、友達のことを進んで聞いたり、それに答えたりしようとする。(聞くこと、話すこと)	過去分詞の形容詞的用法を用いて特定の物について詳しく説明することができる。(話すこと)		過去分詞の形容詞的用法を理解している。(話すこと、書くこと)
Part 2の内容理解	4(本時)	武のグループが教室で発表した職場体験の内容と、キャノン先生の助言を読み取る。			旅館での職場体験で武たちが実際に教わったことを読み取ることができる。(読むこと)	
接触節の後置修飾	5	接触節の後置修飾を用いた「人が～するもの(人)」を表す文の肯定文を学ぶ。		接触節の後置修飾を用い、「自分の買ったもの」について英文で書くことができる。(書くこと)		接触節の後置修飾の用法を理解している。(話すこと、書くこと)
Part 3の内容理解	6	由紀とキャノン先生の教室での会話を読み取る。			キャノン先生の職場体験を読み、教師となった理由を読み取ることができる。(読むこと)	

5 本時の指導

(1) 本時の目標

【理解の能力：読むこと】

- ・ 旅館での職場体験で武たちが実際に教わったことを読み取ることができる。

(2) 本時の評価規準及び具体的評価規準

評価規準	具体的評価規準		支援を要する生徒への手立て
	A：十分に満足できる	B：概ね満足できる	
【理解の能力：読むこと】 ・ 旅館での職場体験で武たちが実際に教わったことを読み取ることができる。	・ 旅館での職場体験で武たちが実際に教わったことと、そこから学んだことを読み取ることができる。	・ 旅館での職場体験で武たちが実際に教わったことを読み取ることができる。	・ “taught”は“teach”の過去であり、「教えた」という意味であることを想起させる。 ・ “Taught A+B”で「AにBを教えた」という意味になることを再度指導する。

(3) 本時の展開

段階	学習活動	指導上の留意点 (T1・T2 の役割)		評価・支援
		T1 (伊藤)	T2 (マーク)	
導入 15分	1 英語で挨拶をする。	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の反応を見ながら必要に応じて口頭導入の補助 	<ul style="list-style-type: none"> 英語で挨拶をし、天気、時刻についても触れる。 平易な英語を用いて説明を加えながら口頭導入をする 	
	2 内容の第1次把握 <ul style="list-style-type: none"> 口頭導入を聞き、内容を推測する。 英語の質問に T、F で答える。 			
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 旅館での職場体験で私たちは何を教わったのだろう。 </div>				
展開 30分	3 課題の確認			
	4 課題の理解と追求 (1) 新出語句の発音と意味の把握 <ul style="list-style-type: none"> 新出語句の発音練習をし、意味を確認する。 (2) 内容の第2次把握 <ul style="list-style-type: none"> 本文を読み、日本語の質問に日本語で答える。 (3) 内容の第3次把握 <ul style="list-style-type: none"> 解説シートにより、本文の意味や、文法事項で分からない箇所を教科書に記入する。 (3) 音読練習 <ul style="list-style-type: none"> 教師の後に続いて音読をする。 (4) 内容の第4次把握 (読むことの言語活動) <ul style="list-style-type: none"> 本文の内容に関する英語の質問に答える。 課題に対する質問に日本語で答える。 	<ul style="list-style-type: none"> フラッシュカードを用いながら、発音上の留意点を示す。 時間差でヒントを板書する。 机間指導をしながら、生徒の質問に答える。 机間指導により、全員が読めるように支援する。 	<ul style="list-style-type: none"> 発音のモデルを示す。 机間指導により、わからない生徒に答えとなる箇所を指摘する。 音読のモデルを示す。 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 【理解の能力：読むこと】 * B 方法：机間指導・発表 ・ 旅館での職場体験で武たちが実際に教わったことを読み取ることができる。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> * 支援を要する生徒への手立て ・ "taught"は"teach"の過去であり「教えた」という意味であることを想起させる。 ・ "Taught A+B"で「AにBを教えた」という意味になることを再度指導する。 </div>
	5 課題のまとめ (本文の視写) <ul style="list-style-type: none"> 本文をノートに視写し、訳まとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> 机間指導により、日本語訳の支援をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 机間支援を行う。 	
	6 次時の予告	<ul style="list-style-type: none"> 次時でキャノン先生の職場体験について学習することを伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> 努力を讃える。 	<ul style="list-style-type: none"> 英語で挨拶をする。
7 挨拶				
終末 5分				